

なぜ今インフラなのか

インフラは人々にとって必要不可欠であるが、開発途上国においては十分に整備されていない、あるいは適切な運営管理が行われないため、その効果を十分に発現していないものがある。また、更にインフラが負の影響を与えている場合も見られる。この結果、人々が望ましい状況になること、あるいは主要な開発課題の達成を困難にしている。

インフラの協力のあり方を考えるにあたって、インフラの重要性を再認識したうえで、まず過去のインフラに関する反省をまとめ、これを真摯に受け止めることが必要である。

1 人々のためのインフラ



村の水道 (バブアニューギニア)



ケノン道路 (フィリピン)

生活を営むためのインフラ

インフラは、人々の生存・生活、安全で健康的な生活を営む権利の保障に不可欠である。

人々の生存のためには、上下水道の整備などによる衛生的な環境の確保、保健・医療施設へのアクセスが必要であり、安定的に食料を確保するための灌漑が必要である。また地震や洪水などから生命や財産を守るためにもインフラは大きな役割を果たす。例えば、オランダでは海面下にある国土を、大規模な防潮堤が保護している。就学のためには、学校が必要であり、また上水道を整備することにより、水汲みの負担が軽減され、就学時間が確保される。また就労や社会活動への参加のためには、女性や老人などの弱者にも配慮したアクセスが必要であり、農村とマーケットとを結ぶ道路を整備することにより販路が確保され、安定した収入を得ることができる。このようにインフラは人々の生活を多様な形で支え、必要不可欠な働きを持つ。

○孤立していた地域から都会へとアクセス可能になった。(今回実施したフィリピンにおけるインタビュー結果より)

インフラとは？

正確にはインフラストラクチャー (infrastructure) であり、ラテン語のinfra「下部に」とstructura「構造物」の組合せが語源である。歴史的には、シルクロードに見られるようにインフラは交流を拡大し、文明を伝えてきた。公益的サービスを生み出す物理的施設のみならず、法制度なども含む概念である。

経済インフラと社会インフラといった区分もされているが、各々が経済面、もしくは社会面のみを寄与しているということはなく、明確な分類は難しい。

経済成長などを通じて持続的発展を支えるインフラ

インフラは国や地域の経済的成長を支え、富の再配分を通じて、個人の生活の質を高め、その持続的な向上を確保するものである。例えば、道路や港湾などにより、市場が拡大し、灌漑施設の整備により、農業生産性が向上し、経済成長を支えてきた。

また、インフラは民間の投資を誘引する環境としての役割も果たすものである。民間投資はインフラの整った地域に行われるものであり、低所得国であっても、物的インフラに加え、広義のインフラである良い統治や制度整備などを併せて行うことにより、投資環境が整備され、投資促進、雇用創出、生産性向上、さらには経済成長に繋がることとなる。実際に東アジアの多くの国では、この過程を経て経済成長を現実化し、貧困を削減することに成功している。

○農業農村基盤整備により、安定した食糧が得られ、人々の都会へ労働を求める傾向が軽減された。(フィリピンにおけるインタビュー結果より)

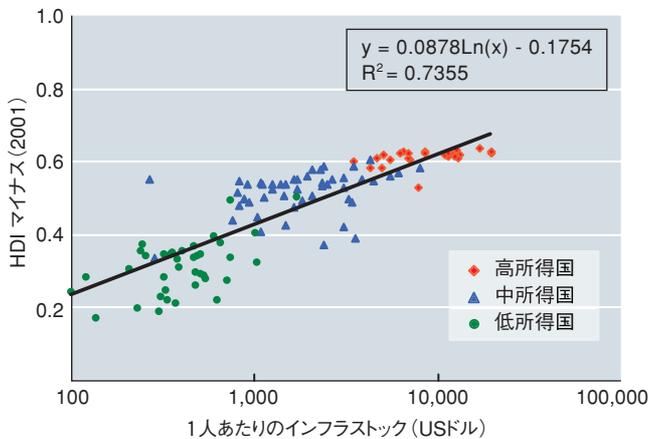
国や地域を越えた課題に貢献するインフラ

近年では、グローバル化の潮流の中で、さらにインフラを整え、国や地域、都市レベルでの競争力を強化しようという動きが急である。FTAや地域の経済統合などの動きのなかで、大メコン圏におけるアジアハイウェイなどのクロスボーダー開発の動きがあり、またアジアでは民間投資を呼び込むための都市単位でのインフラ整備の競争が激化し、中国や東欧などでも地域単位で同様の動きが見られる。

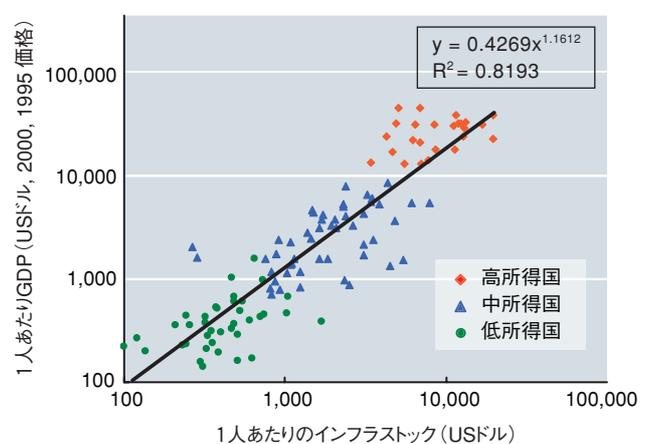
このように国や地域毎での競争力を確保するためにインフラは不可欠である。一方で、インフラは、国や地域の一体性を高める効果もある。国境を越えるインフラあるいは国内全域をネットワークとして結ぶインフラは、域内での安定化を支援するものである。

インフラと社会開発・経済成長との関連性

インフラストック¹⁾と人間開発指標²⁾



1人あたりGDPとインフラストックの関係



- 1) 1人あたりインフラストックは、2000年における各国の電力、道路、鉄道、上下水道、固定電話、携帯電話関連インフラストック量に、平均単価をかけ、人口で除して算出
 - 2) HDI マイナス：平均余命（年数）、成人の識字率（15歳以上、％）、小中高への就学率の合成値（％）、3つの指標の合計。0.67を最も高い値として、高いほど良い。HDIから所得成分を除いたもの
- 出典：UNDP (2002), Human Development Report, M.Fay & T.Yepes (2003)